

# 田村 和彦 教授 年譜・著作目録・活動業績など

## 一年 譜一

1953年 長野県に生まれる。

### 学歴

- 1975年3月 上智大学文学部ドイツ文学科 卒業（文学士）
- 1977年3月 東京都立大学大学院人文科学研究科独語独文学専攻修士課程 修了（文学修士）
- 1978年5月 東京都立大学大学院人文科学研究科独語独文学専攻博士課程中途退学

### 職歴

- 1978年5月 東京都立大学人文学部助手
- 1980年4月 桃山学院大学経営学部助手
- 1983年4月 桃山学院大学経営学部助教授
- 1985年10月 ドイツ連邦共和国・トリア大学奨学生としてドイツ滞在（1986年9月まで）
- 1989年4月 桃山学院大学文学部助教授
- 1990年4月 関西学院大学経済学部助教授
- 1996年4月 関西学院大学経済学部教授
- 2000年4月 ドイツ連邦共和国 アウグスブルク大学に滞在（学院留学・招聘研究者として）  
（2001年3月まで）
- 2001年4月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科修士課程指導教授（現在に至る）
- 2001年4月 関西学院大学言語教育研究センター副長（2004年3月まで）
- 2003年4月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士課程前期課程指導教授（現在に至る）
- 2003年4月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科博士課程後期課程指導教授（現在に至る）
- 2010年4月 関西学院大学国際学部教授（現在に至る）
- 2014年4月～9月 ドイツ連邦共和国 ベルリン自由大学に滞在（学院留学・招聘研究者として）

### 学会活動（おもな所属学会および役職）

- 1978年4月～ 日本独文学会会員（現在に至る）
  - 2005年7月より2007年3月まで欧文誌・和欧混合誌の編集委員
  - 2010年度、2011年度 日本独文学会 第50回、51回蓼科ゼミナール実行委員長
  - 2012年から2016年まで 日本独文学会・学会誌『ドイツ文学』および Neue Beiträge zur Germanistik（欧文誌）編集責任者
- 1983年4月～ 阪神ドイツ文学会会員（現在に至る）
  - 2002年4月～2006年3月 学会幹事
  - 2018年4月～2021年3月 阪神ドイツ文学会・学会誌『ドイツ文学論攷』編集担当幹事
- 1998年4月 関西学院大学言語教育研究センター副長（2000年3月まで）

- 2007年4月～2010年3月 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科委員長・関西学院  
大学言語教育研究センター長
- 2012年4月～ 日本ヘルダー学会会員  
2015年より同会理事
- 2016年4月～2018年3月 関西学院大学国際学部 学生担当副学部長
- 2018年4月～2019年3月 関西学院大学国際学部 教務担当副学部長

## －主要業績－

### 著書

1. 『魔法の山に登る－トーマス・マンと身体－』2002年12月 関西学院大学出版会
2. 『ドイツ庭ものがたり』2021年3月 関西学院大学出版会

### 共著（部分的に執筆）

1. 『論集 トーマス・マン』うち「トーマス・マンと同性愛」1990年12月 クヴェレ会
2. 『世紀末は動く』うち「ドイツという身体——ユーゲント様式と青年運動をめぐって」1995年2月 松籟社
3. 『カルポス（圓子修平教授 退官記念論集）』うち「翼持つ蛇－『ファウストゥス博士』の神話学」1995年9月 同学社
4. *Schauplatz der Verwandlungen: Variationen über Inszenierung und Hybridität.* (Inszenierung と Hybridität をテーマとしたゼミナールの論集の Vorwort を執筆) 2011年3月 iudicium Verlag. München (ドイツ語)
5. *Wie alles sich zum Ganzen webt: Festschrift für Yoshito Takahashi zum 65. Geburtstag.* うち *Südwärts nach Zauberberg.* (ドイツ語) を執筆 2010年11月 Stauffenberg
6. *Wie gleich ist, was man vergleicht?: Ein interdisziplinäres Symposium zu Humanwissenschaften Ost und West.* (Hrsg. von Akio Ogawa) うち *Vergleich und Sympathie. Zum „colonial gaze“ in der Völker-Schau und in Peter Altenbergs Ashantee* (ドイツ語) 2016年5月 Stauffenberg

### 論文

1. 「呼び戻されたムーサ」1979年3月『人文学報』135号（東京都立大学人文学部）
2. 「自画像と神話（1）（2）」（1）1983年4月、（2）1985年5月『人文科学研究』第19巻第1号および第20巻第3号（桃山学院大学総合研究所）
3. *Die Idee der Wiederholung im Thomas Manns Roman Joseph, der Ernährer.* 1982年12月『ドイツ文学論攷』第29号（阪神ドイツ文学会）
4. 「物語の身体－『魔の山』の根」1988年7月『人文科学研究』第24巻第1号（桃山学院大学総合研究所）
5. 「一等車室の夢－トーマス・マンと交通機関」1991年12月『ドイツ文学論攷』第33号（阪神ドイツ文学会）
6. 「魔法の山の器物たち（1）（2）」（1）1994年3月、（2）1998年1月『文学語学論集』第5号、第8号（関西学院大学経済学部）
7. 「保養地と小説－『ヴェネチアの死』再読」2000年3月『エクス 言語文化論集』創刊号（関西学院大学経済学部）

8. 「身体問題としてのドイツー衛生・地理・コロニアル」2003年3月 日本独文学会研究叢書「ドイツ青年運動と文学」に掲載
9. 「『魔法の山』の東へ」2006年3月 日本独文学会研究叢書。「『魔の山』の周辺」に掲載
10. Der ‹gesunde› Strand. Thomas Manns *Der Tod in Venedig* im Licht der Hygiene. 2005年6月 Neue Beiträge zur Germanistik. (日本独文学会 学会誌・欧文誌) 2005年 Band 4/Heft 6
11. 「魔法の山の南へーペーベルコルン異聞」2009年4月『エクス 言語文化論集』(関西学院大学経済学部) 第6号
12. Die Dingwelt auf dem *Zauberberg*. 2016年 Neue Beiträge zur Germanistik. (日本独文学会学会誌・欧文誌) Band 15/Heft 1
13. 「フォルクスパルクという思想」2018年3月『国際学研究』第7号(関西学院大学国際学部)
14. 「レーベレヒト・ミッゲと緑のアヴァンギャルド」2020年3月『国際学研究』第9号(関西学院大学国際学部)

#### 翻訳

1. ニコラウス・ゾンバルト『男性同盟と母権制神話ーカール・シュミットとドイツの宿命ー』1996年 法政大学出版局
2. クラウス・テーヴェライト『男たちの妄想』I, II 1998年、2004年 法政大学出版局

#### (その他)

1. 『ドイツ文化 55のキーワード』項目執筆(「代替医療」) ミネルヴァ書房 2015年
2. 「クラウス・テーヴェライト『男たちの妄想』に寄せて」2005年度レッシング・ドイツ連邦共和国翻訳賞受賞に際しての講演ー
3. クラウス・テーヴェライト『男たちの妄想』に寄せて『エクス 言語文化論集』(関西学院大学経済学部) 2008年

#### 書評

1. サンダー・L・ギルマン『「性」の表象』(青土社 1997年) 1998年3月 関西学院大学『人権研究』創刊号
2. 下程息『「ファウストゥス博士」研究』(三修社 1996年) 1996年12月『ドイツ文学論攷』第38号(阪神ドイツ文学会)
3. 「書評4篇ー新しいトーマス・マン像をめぐって」2007年1月 日本独文学会『ドイツ文学』133号 第6巻1
4. 溝井裕一『動物園の文化史』(勉誠出版 2014年) 2015年3月『ドイツ文学論攷』第57号(阪神ドイツ文学会)
5. 竹岡健一『ブッククラブと民族主義』(九州大学出版会 2017年) 2018年5月 日本独文学会『ドイツ文学』158号